



木更津市議会会派 立憲民主 ほりきり俊一 議会報告 No.3

令和4年
8月9日発行

〔発行〕木更津市議会
会派：立憲民主

～市民の生活を守り、草の根からの民主主義を実現する～

〒292-0833 木更津市貝淵4-10-5 TEL.0438-38-6888 E-mail suwa-s-s@silver.plala.or.jp

議員生活も3年が過ぎました。皆様のご指導、ご支援のたまものと厚くお礼申し上げます。

本日、8月9日は1945年に長崎に原子爆弾が投下された悲しい日です。現在の世界の状況を見ると、悲しい思いばかりが募ってしまいます。世界の人々が戦争の惨禍を免れ、少しでも多くの笑顔が戻る日が一日も早く来てくれることを願ってやみません。

私が議会で取り上げさせていただいた市民の方々からのご意見です。（一部抜粋させていただきました）

市民の声①

袖ヶ浦市に住んでいたことがありましたが、とても住みやすかったです。また、子育てもしやすかったです。今は君津市の公園や袖ヶ浦市の公園にわざわざ行っています。木更津市の公園はとてもさみしく、子育て支援なども薄く感じます。つい、「袖ヶ浦や君津は良いですね」とママ友に話してしまいます。（「魅力あるまちづくりに関する市民アンケート」へのご意見から）

市民の声②

君津市から転入してきました。ゴミ袋は本当に高いです。プラスチック・ペットボトル・カン・ビンはすべて無料でした。予算はどのように決められているのでしょうか？ガン検診も無料でしたが？福祉について木更津と君津は本当に差があります。紙おむつを捨てる袋は君津市は無料でいただけましたし、木更津はどのような事に費用を使っているのか教えて頂きたい。（「木更津市議会だより」へのご意見から）

このような市民の皆様からのご意見は市政にとって大変貴重なものですが、残念ながら十分に市政に反映されているとは言えない状況です。しかし、声をあげ続けていただかなければ変わらないことも事実です。市民の皆様には市に直接、または私たち議員にご意見等をお寄せください。

私が **この1年間で** 市議会で取り上げたこと・主張したこと

（令和3年9月定例会～令和4年6月定例会）

● 市民に寄りそった行政を

● 福祉を削るな

私は「木更津市心身障害児童福祉手当支給条例」による月額4,000円の支給について増額を求めましたが、木更津市は増額どころか財源不足を理由にこの条例を廃止し、支給を打ち切る方向とのこと。もちろん容認できません。

ちなみに同様の手当について袖ヶ浦市は8,650円、君津市は5,000円の月額支給を行っています。



● 教育を削るな

令和4年度の木更津市一般会計予算の歳出全体に占める教育費の割合はわずか7.9%です。

袖ヶ浦市と富津市の9.8%、君津市の12.5%に比べると恥ずかしい数字です。これで「子どもを育む環境づくりを進めることができるのでしょうか。」



● 市民サービスを削るな

市民の皆さんからの不満が大きいのが木更津市の市民サービスの低さです。道路、公園からゴミ袋、公共交通など多岐にわたっています。

これらを削って市が進めているのが、巨大プロジェクトです。「箱物づくり」や「オーガニックなまちづくり」などの事業への支出が多く、市民生活への予算を圧迫しています。

今年3期目を迎えられた渡辺市長は、今までの方針をさらに進めていくとのことなので、どこまで市民生活を向上させることができるか分かりません。

「巨大プロジェクトよりも市民生活の向上を」と訴えました。



● 下水道が十分に普及していない木更津市はオーガニックで持続可能なまちと言えるのか

千葉県統計によれば、令和3年3月末現在の下水道処理人口普及率は木更津市55.7%、袖ヶ浦市68.7%、君津市59.6%、千葉県全体は76.1%です。木更津市の普及率は千葉県の市町村でも下から数えた方が早く、とても十分に普及しているとは言えない状況です。

公衆衛生の向上と増進は憲法の「生存権」からの要請でもあります。下水道の普及を主張しました。

● 交通弱者への支援を

● 「心身障がい者（児）タクシー利用助成事業」及び「高齢者タクシー利用助成事業」の両タクシー事業について、今後の利用促進に向けての課題について確認しました。

該当される市民の皆様は、ぜひ積極的なご利用をお願いいたします。

● 地域公共交通として、定額で利用できる市街地循環バス等の施行に向けての準備を進めるよう、市に求めています。

市は今年11月から実証運行実施の予定ですが、距離別運賃で定額料金ではありません。



● 市の進める巨大プロジェクトについて

● パークベイプロジェクトの5事業について

● 「木更津飛行場周辺まちづくり基本構想」の4事業について

いずれも現在のところ、期間や予算の見通し等ができていません。建物等の建設、周辺整備、完成後の維持管理などに莫大な予算が必要であるし、市債の発行などとなれば、今後の世代に大きな負担を課すことになってしまいます。

計画性のない箱物づくりなどを見直し、市民生活の向上などに予算を回すべきと主張しています。

● 学校教育…教職員の負担軽減について

● 特別教室へのエアコン設置を

普通教室へのエアコン設置は終わりましたが、特別教室で授業を行う教員にとって真夏の40度近くにもなる室温は過酷です。

校長会からも要請が出されましたが、市は現在のところ、迅速な対応をしようとしていません。

● 教職員の加配を

今年度からの小学校での教科担任制導入や35人学級の実施、小中学校で始まったGIGAスクール構想などで教職員の負担は増加しています。

支援員の派遣や教職員の加配等によるサポート体制の充実を求めました。

● 自動音声対応電話機の設置を

教職員の働き方改革の一環として、夜から朝にかけて学校への電話を自動音声対応にするよう求めました。

今年10月から全小中学校で実施していただける予定です。

● 「学年はじめ休業」の確保を

今年度のように4月のはじめに土日等が入ってしまうと、

学校の新学年の準備が間に合わなくなってしまいます。

始業式を遅らせて準備を行う期間の確保を求めました。

今年度から学年はじめ休業を確保していただきました。



● 基地政策等について

- オスプレイの配備による騒音や振動、低周波音等による被害を訴える住民が多いにもかかわらず、防衛省は測定すらしようとせず、不誠実な態度のままです。結局、市の予算で測定等を行いました。これらについて被害に苦しむ住民の皆さんにどのように説明するのかを質しました。また、「木更津駐屯地に関する協議会」の効果的活用を求めました。
- 「木更津駐屯地周辺地域等振興交付金」の用途を明確にするよう求めました。
- 今年1月に木更津駐屯地を視察された岸防衛大臣と市長等との具体的な話し合いの内容について、議会や市民への報告を求めました。
- ロシアのウクライナへの侵攻などから、有事の際の対応について市に質しました。市には「木更津市国民保護計画」があるが、現在のところ、ロシアの侵攻を受けて具体的な対応はしていないとのことでした。



イメージ写真

● 学校給食費の無償化について

- 令和4年6月現在で、何らかの形で給食費を無償にし、保護者の負担軽減を図っている自治体は21市町に及びます。君津市と富津市も2学期分の学校給食費を無償にする旨、6月議会で決議しました。木更津市も無償化を実施するよう、検討を求めましたが、「国や県の動向を注視する」と述べるのみで、検討すらしようとしていません。
- 木更津市は学校給食についてはオーガニックなまちづくりとの関連で有機米の供給にこだわっています。全小中学校の児童生徒に有機米を供給するために6月の補正予算で、わずか60日分の有機米の炊飯代だけの費用として900万円以上を市の一般財源から支出するとしており、この支出分が給食費の無償化ができない理由と考えられます。また、最終的には炊飯代だけで約2,000万円の支出を予定しているとのこと。これに有機米の生産費等を加えると、年間にどれくらいの支出になってしまうのでしょうか。今は新型コロナウイルス感染症や物価の高騰による生活難のため、今日の食事代や赤ちゃんのミルク代も不足する市民のために、有機米の提供よりも給食費の無償化による家計への負担軽減による支援を先にすべきと主張しました。



私がこの1年間で市議会の議決と異なる表決をしたこと

● 令和3年9月定例会

- アクアステーション(仮称)のハブ化された高速バスターミナルの設置を求める陳情
木更津市にどの程度の財政負担が生じるのかの計画が不明な現状で、賛成することはできませんでした。

● 令和3年12月定例会

- 基地対策関係施策に関する要望書に関する発議案
市が令和3年8月に防衛省に提出した要望書と大きな差異は見当たりません。私たち議員は市民の一票によって安全等を守るべく付託を受けている以上、市の要望書よりも市民のオスプレイの訓練等から生じる騒音等の苦痛に寄り添った要望書にすべきであるとの理由から反対しました。

● 令和4年3月定例会

- 令和4年度木更津市一般会計予算案
新型コロナウイルス感染症や石油価格の高騰によって生活や事業継続が困難になった市民や事業者を支援する予算編成であるべきで、プロジェクト等に予算編成が偏りすぎている。また、教育費にもしっかりとした予算配分をすべきであるなどの理由から反対しました。

● アクアコインについて

- 市から団体等に支給する補助金や負担金をアクアコインでの支払いを進める計画によって、市や事業者の新たな負担が生じること、現金化の際の手数料による金額の目減りが生じることの危惧について質しました。
- 事業者によって換金の比率が違う点の不公平について質しました。



● その他、このようなことを取り上げました

- 新型コロナウイルス感染症による営業の自粛等により、農林漁業者や中小企業者の事業は苦境に立たされました。「木更津市緊急事態宣言影響緩和一時支援金」の支援額や支給条件、支援対象期間を見直し、さらに手厚い支援につなげるべきであると主張しました。
- 私が市議会に携わるようになった3年間、議場の部長席はすべて男性で占められています。今年度改正された「女性活躍推進法」の趣旨とあまりにかけ離れているのではないかと質しました。市の答弁は「職員の能力や資質、人事評価等を考慮し、性別に関係なく、優秀な人材を登用している」とのことですが、評価の適正の確保など女性蔑視にもつながりかねない大きな問題を含んでいると思います。
- 市が進める「オーガニックなまちづくり」は、ここ3年間の市民アンケートで「はじめて聞いた」「聞いたことはあるがよく分からない」の割合の合計は約90%を占めています。何年もかけた取り組みの成果がこのような数値であるならば、政策の転換が必要ではないか。この事業による多額の支出を毎年重ねるのではなく、その予算を市民生活の向上のために遣うべきであると主張しました。
- 市制施行80周年記念式典に向けて令和4年度予算に3,000万円を計上しています。新型コロナウイルス感染症や物価高に苦しむ市民には受け入れられない高額予算であると、予算案に反対しました。
- 「木更津市地区担当職員制度」を発足させたのであれば、防災に限らず様々な場面を捉えて市民と市職員が触れ合う機会を増やした方が良いのではないかと提案しました。
- 3期目を迎えられた渡辺市長におかれては、自らの施政方針に固執することなく、国政や社会の状況を把握するとともに、市の実施する「魅力あるまちづくりに関する市民アンケート」などに寄せられた市民の意見や要望を真摯に受け止め、誠実な対応を求めました。



皆様のご意見をお聞かせください。ほりきり俊一の活動に生かさせていただきたいと考えています。